

第 2 回八幡^{やわた}湿原再生協議会議事録（要旨）

- 1 日 時 平成 17 年 2 月 13 日（日曜） 午後 1 時から午後 3 時 15 分まで
 - 2 場 所 山県郡北広島町川小田 芸北文化ホール 1 階 多目的ホール
 - 3 出席委員 委員総数 26 名中 25 名出席（末尾に出席委員一覧表記載）
その他八幡湿原再生協議会設置要綱第 9 条第 3 項に基づく専門家 1 名出席
 - 4 議 題 (1) 前回協議会の議事と課題について
(2) 全体構想（案）について
(3) 役割分担（案）について
(4) その他
ア 次回の協議会開催時期について
イ 副会長について
ウ 2 部局（グループ）の当面の活動について（再掲）
エ 平成 17 年度の活動計画について
オ 柔軟な取組み等について
 - 5 担当部署 広島県環境生活部環境局 自然環境保全室 自然公園整備グループ
電話：(082) 513 - 2932（ダイヤルイン）
広島県芸北地域事務所 農林局林務第一課 自然保護係
電話：(082) 814 - 3181（内線 445 ~ 447）
 - 6 会議の内容
開会あいさつ
事務局からの報告事項
(1) 上サロベツ自然再生協議会（国土交通省北海道開発局）について
湿原の再生を目指している上サロベツ自然再生協議会から北海道開発局稚内開発建設部
福島土地改良情報対策官ほか 2 名が本日当協議会の視察にお越しになっていること。
(2) 北広島町の新設について
平成 17 年 2 月 1 日付けの合併で芸北町は北広島町となり，同町では委員人選中のため本
日は山田芸北支所長が参加するとともに，副会長の人事については次回決定見込みのこと。
(3) 土木工学専門家について
前回からの意見を踏まえ，土木工学の専門家としての意見を聴取するため，八幡湿原再生
協議会設置要綱第 9 条第 3 項に基づく会長の出席要請により，野村吉春氏をお迎えしたこと。
- 議題
- (1) 前回協議会の議事と課題について（資料 1）
事務局から資料 1 により，前回協議会の議事と課題について，説明した。

(2) 全体構想(案)について(資料2)

事務局から資料2により、全体構想(案)について、説明した。

【主な意見等】

ア クラスタ分析(類似している水文調査地点を取出してグループ化すること)について

- ・ クラスタ分析(p.124)にどのようなデータ・要素を使ったか明らかにすること。
- ・ 水質や地下水位の変動幅・変動時間の要素を加味してクラスタ分析の検討を行うこと。

イ 植生からの再生基本方針等について

- ・ 図4-3.5「植生からの再生基本方針(p.141)」及び図5-5.1「自然再生手法の適用地(p.164)」で、対象区域内で白地になっている部分にも対策を考えていてもいいのではないか。
- ・ 上図(図4-3.5, 図5-5.1)で示された以外の再生手法の考え方(ケース)もあるのではないか。

(3) 役割分担(案)について(資料3)

事務局から前回協議会やメーリングリストの議論を踏まえ、実質的な討議を深めるため、八幡湿原再生協議会設置要綱第14条に基づき、資料3(叩き台)によりグループA(工法検討・維持管理)及びグループB(環境教育・広報活動)を提示するとともに、次の3点について諮ったところ、当該主旨は概ね了承された。

各委員等は、原則としてグループA又はグループBのいずれかに参加すること

各グループの代表と幹事(連絡等を行う世話役)を決定すること

当面の取組みについて議論をすること

会長から各グループの議論の対象について次のとおり主旨説明が行われるとともに、グループの意見も最終的には協議会で議論する(責任を持つ)ものである点、了承された。

グループA(工法検討・維持管理)

実際にどのような湿地をつくっていくか、あるいは本当につくれるのかに係ること

グループB(環境教育・広報活動)

- ・ 活動をすることに対しての地元への説明、あるいは広く広島県で活動を行うことの説明に係ること(地域レベル)
- ・ 必要な場合参加型にして、日本国民全体の活動としての説明に係ること(国レベル)

散会后、各グループに分かれて当面の取組み等について議論を行った。

【主な確認事項等】

ア 各グループでの議題について

再生手法について6月までに複数案立案すること。

イ 目標設定について

目標はグループ等で複数案を検討し、次回の協議会で決定すること。

ウ 所属グループ(資料3)の変更等について

- ・ 地元住民代表の近藤委員及び河野委員の2名は両方のグループに所属すること。
- ・ 上手委員、宗岡委員及び岩田委員は、グループBからグループAへ所属変更すること。
- ・ その結果、グループAは16名、グループBは12名により構成されること。

エ 部局の代表及び幹事(世話役)について

- ・ グループAの代表は水田委員が、幹事は白川委員がそれぞれ選出されたこと。
- ・ グループBの代表は近藤委員が、幹事は茂田委員(代理)がそれぞれ選出されたこと。

(4) その他

【主な確認事項等】

ア 次回の協議会開催時期について

第3回協議会は平成17年6月頃に開催する予定。

イ 副会長について

副会長職(旧芸北町助役)の後任人事については、北広島町の委員が決定次第、原則として同委員に就任してもらうことでした。

ウ 2部局(グループ)の当面の活動について(再掲)

- ・ 次回協議会までに2つのグループは議論の場を持ち、具体的な計画案を作成すること。
- ・ グループA(工法検討・維持管理)は、維持管理の部分まで考えて具体的な工法とそれを適用する場所を検討する必要があるのではないか。
- ・ グループB(環境教育・広報活動)は、早急に来年度の具体的な活動内容を作成するとともに、広報活動では、パンフレット素案を作成する必要があるのではないか。

エ 平成17年度の活動について

平成17年度の各委員の所属する団体・法人等の行事では、八幡湿原の整備を行うことを目標とし、本協議会の活動として位置付けること。

オ 柔軟な取組み等について

- ・ 自然再生事業では、従来型の公共事業のような硬直的な対応はやめて科学的な評価に基づくフィードバックを繰り返し行い、場合によっては構想案を変更していくというように、もう少し柔軟に考え、自由に活動してもらう方がよいのではないか。
- ・ 分科会等を設置しているところが多いが、細分化して各々が違った方向に進むことがあるので、協議会自体の調整機能をより強化する必要があるのではないか。

7 会議資料

次 第(上サロベツ自然再生協議会、委員等名簿及び北広島町合併関連資料を添付)

資料1 前回協議会の議事と課題について

- ・ 議事録
- ・ 報道記事(平成16年11月6日中国新聞)

資料2 全体構想(案)について

(本 編)

- ・ 事業の概要
- ・ 調査
- ・ 再生目標の設定
- ・ 再生方法の検討
- ・ 全体構想(案)策定

(資料編)

- ・ 動物調査「注目種(昆虫類)確認地点及びハッチョウトンボ・ヒロシマサナエの保全すべき生息環境」 希少種情報は非公開のため散会后回収

資料3 役割分担(案)について

出席委員一覧表（敬称略）

分野	ふりがな 氏名(は代理出席)	所属等	備考
専門家(植物)	なかごし のぶかず 中越 信和	広島大学教授	会長
専門家(動物)	みずた くにやす 水田 國康	広島虫の会 会長 広島県立大学名誉教授	
地元住民代表	こんどう こうじ 近藤 紘史	西中国山地自然史研究会 会長	
	こうの まさくに 河野 政邦	八幡地区行政総代会 会長	
公募委員 (個人)	い て みちお 井手 三千男	写真家，源流をたずねる会 代表幹事	
	かみて しんいち 上手 新一	北広島町（旧芸北町）出身	
	しらかわ かつのぶ 白川 勝信	高原の自然館（北広島町教育委員会） 学芸員	
	たさか もとおみ 田坂 素臣	広島県鳥獣保護員	
	なかつ たかかず 中田 隆一	（財）日本気象協会（元気象庁予報官） NHK広島 気象キャスター	
	まさもと よしただ 正本 良忠	みずえ緑地（株） 会長	
	むねおか やすあき 宗岡 泰昭	写真家	
	やまうち まさや 山内 雅弥	（株）中国新聞社 編集委員室	
	やまもと たかよし 山本 高義	内外エンジニアリング（株） 広島事業所長	

（次ページへ続く）

分野	ふりがな氏名(は代理出席)	所属等	備考
公募委員 (団体・法人)	たかつき あきひこ 高月 明彦	特定非営利活動法人(NPO法人) 海外壮年協力隊 広島支部 副理事	代理 佐々木勲三
	かわうち のぶただ 川内 信忠	カキツバタの里づくり実行委員会 会長	
	いしい やすゆき 石井 泰行	西条・山と水の環境機構 理事長 (西条酒造組合10社で構成)	
	おかだ たかひろ 岡田 孝裕	(財)広島県環境保健協会 理事長	代理 和田秀次
	かとう まさつぐ 加藤 正嗣	広島県自然観察指導員連絡会 代表	代理 茂田幸嗣
	かじおか みきお 梶岡 幹生	広島県ビオトープ建設協会 会長 (土木・造園業者15社で構成)	代理 片桐 敬
	あらかわ じゅんたろう 荒川 純太郎	ひろしま人と樹の会 会長	欠席
	いわた かずみ 岩田 和美	八幡湿原を守る会 代表	
関係行政機関	しばた やすくに 柴田 泰邦	環境省 自然環境局 山陽四国地区 自然保護事務所 自然再生事業専門官	
関係地方公共団体	(調整中)	北広島町(旧芸北町 助役)	代理 山田清司
広島県	ひろかね ともゆき 広兼 智之	芸北地域事務所 農林局長	
	いけだ さくたろう 池田 作太郎	県立林業技術センター 森林環境部長	
	こまつ こうじろう 小松 光二郎	環境生活部 環境局 自然環境保全室長	
委員総数 26名中 25名出席			

八幡湿原再生協議会設置要綱第9条第3項に基づく専門家の出席要請(敬称略)

分野	ふりがな氏名	所属等	備考
専門家 (土木工学)	のむら よしはる 野村 吉春	西中国山地自然史研究会, 土木学会コンサルタント委員会 PM (プロジェクト) 研究小委員会委員長	

第9条第3項 会長は、協議会の会議の進行に際して専門的知見を有する者の意見を聴取することを必要と認める場合、協議会の会議に委員以外の者の出席を要請することができる。

役割分担表

H17.2.13決定

	氏名(敬称略) 「印は代理」	所属等	役職	所在地	分野	A 工法 検討・ 維持管理	B 環境 教育・ 広報活動	備考
1	中越 信和	広島大学	教授	東広島市	専門家(植物)			会長
2	水田 國康	広島虫の会, 広島県立大学	会長, 名誉教授	安佐北区	専門家(動物)			A 部局代表
3	近藤 紘史	西中国山地自然史研究会	会長	北広島町	地元住民代表(団体)			B 部局代表, 複数参加
4	河野 政邦	八幡地区行政総代会	会長	北広島町	地元住民代表(団体)			複数参加
5	井手 三千男	写真家, 源流をたずねる会	代表幹事	安佐北区	個人(公募)			
6	上手 新一	北広島町(旧芸北町)出身		安佐北区	個人(公募)			
7	白川 勝信	高原の自然館(北広島町教育委員会)	学芸員	北広島町	個人(公募)			A 部局幹事(世話役)
8	田坂 素臣	広島県鳥獣保護員		北広島町	個人(公募)			
9	中田 隆一	(財)日本気象協会(元気象庁予報官), NHK広島気象キャスター		安佐北区	個人(公募)			
10	正本 良忠	みずえ緑地(株)	会長	西区	個人(公募)			
11	宗岡 泰昭	写真家		安芸区	個人(公募)			
12	山内 雅弥	(株)中国新聞社 編集委員室		西区	個人(公募)			
13	山本 高義	内外エンジニアリング(株) 広島事業所	事業所所長	南区	個人(公募)			
14	高月 明彦	特定非営利活動法人(NPO法人) 海外壮年協力隊 広島支部	副理事	中区	団体・法人(公募)			
15	川内 信忠	カキツバタの里づくり実行委員会	会長	北広島町	団体・法人(公募)			
16	前垣 寿男	西条・山と水の環境機構 (西条酒造組合加盟10社で構成)	理事	東広島市	団体・法人(公募)			代表石井氏
17	和田 秀次	(財)広島県環境保健協会 環境生活センター	生物調査課長	中区	団体・法人(公募)			代表岡田氏, 岩見氏出席の 場合あり
18	茂田 幸嗣	広島県自然観察指導員連絡会	会員	安佐北区	団体・法人(公募)			代表加藤氏, B 部局幹事(世話役)
19	片桐 敬	広島県ピオトープ建設協会 (土木・造園業者15社で構成)	副会長	安佐北区	団体・法人(公募)			代表梶岡氏

	氏名(敬称略) 「印は代理」	所属等	役職	所在地	分野	A 工法 検討・ 維持管理	B 環境 教育・ 広報活動	備考
20	畝 崎 辰 登	ひろしま人と樹の会	事務局	中 区	団体・法人(公募)			代表荒川氏
21	岩 田 和 美	八幡湿原を守る会	代表	北広島町	団体・法人(公募)			
22	柴 田 泰 邦	環境省 自然環境局 山陽四国地区自然保護事務所	自然再生事業専 門官	岡 山 市	関係行政機関			
23	(調整中)	北広島町		北広島町	関係地方公共団体			
24	広 兼 智 之	広島県 芸北地域事務所	農林局長	安佐北区	地方公共団体(実施者)			
25	池 田 作太郎	広島県立林業技術センター	森林環境部長	三 次 市	地方公共団体(実施者)			
26	小 松 光二郎	広島県 環境生活部環境局	自然環境保全室 長	中 区	地方公共団体(実施者)			
27	野 村 吉 春	西中国山地自然史研究会, 土木学会コンサルタント委員会		安佐南区	専門家(土木工学)			設置要綱第9条第3項に基 づく出席要請

八幡湿原再生協議会設置要綱第14条に基づき、部局を設置
原則として、各委員等はいずれかの部局に参加(複数可)

16

12